

不知火の灌水と採収時期による減酸の促進

不知火はやや樹勢が弱く、干ばつ年には小玉になりやすく、また、減酸が遅れるなどの問題がある。

高接ぎ5年生の屋根掛け栽培園で夏季と秋季に区分した灌水試験を行った結果、8月中旬から9月中旬までの夏灌水(5日間断30mm)は採収果の1果重がすぐれており、減酸にも有効であった(表1)。また、本年度試験中ではあるが、灌水に併せて早めに葉果比80~100に摘果すると、さらに効果が高くなり樹勢も良好であることがうかがえる。

平成6年は強い干ばつの年であり、不知火は全般に酸高であった(図1)。この年の果

実について、早い時期(1月)に採収したものは、貯蔵中の減酸が緩慢であり出荷は4月下旬から5月となった。一方、3月まで樹上越冬した果実は貯蔵果よりも減酸が早く進み食味が向上した。このことから冬季温暖な地域では2月下旬か、3月上旬まで袋掛けなどによって樹上越冬栽培すれば、3月中旬から4月上旬にも出荷できる。しかし、冷気の停滞しやすい窪地など、果実の寒害が心配される園地では、早い時期(1月頃)に採収して貯蔵し、酸が1%程度に減少するまで出荷をおくらせるのが望ましいといえる。

このように不知火は早めの摘果と夏季高温

期の十分な灌水によって、果実の肥大促進とあわせて減酸を図るとともに、できるだけ樹上越冬で減酸を促し、採収の時期は酸濃度の経過をみて決めるのがよい。

(南予分場：主任研究員
菊池 泰志)

表1 不知火(屋根掛け栽培)の夏秋期の灌水が採収前と貯蔵後の品質に及ぼす影響(平成7年度)

試験区	1果重 (g)	Brix		クエン酸(g/100ml)	
		12/29	2/20	12/29	2/20
夏季灌水区	273	14.2	14.8	1.30	1.14
秋季灌水区	265	13.9	15.5	1.49	1.35
夏季+秋季灌水区	289	13.5	14.6	1.37	1.17

注) 夏季灌水：8月11日～9月13日の期間
5日間断30mm灌水(他の時期は2週間に1回灌水)
秋季灌水：9月14日～10月23日の期間
7日間断30mm灌水(他の時期は平均10日に1回灌水)
夏季+秋季灌水：8月11日～10月23日の期間
上記夏季灌水・秋季灌水と同じ灌水
1月25日採収、常温で貯蔵

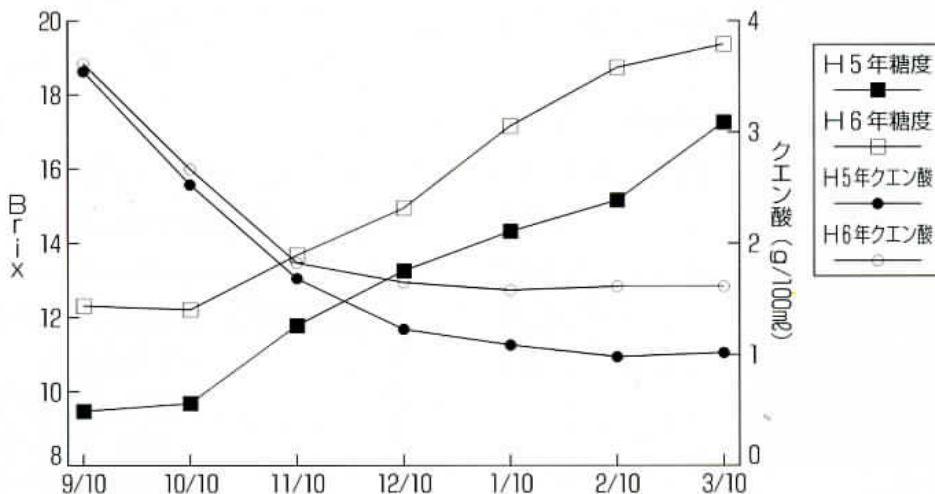


図1 不知火の多雨年(H5)と乾燥年(H6)におけるBrixとクエン酸の推移